



中国四国ブロックにおけるHIV医療体制の整備に関する研究

研究分担者 木村 昭郎

広島大学原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科教授（平成22、23年度）

藤井 輝久

広島大学病院 輸血部准教授・エイズ医療対策室室長（平成24年度）

研究要旨

2010年度から3年間の中国四国内の患者動向については、他ブロック同様患者報告数は増えているが、日本全体の報告に占める本ブロックの割合が漸増している。また広島、島根、山口以外の県は、比較的AIDSの比率が多いことが分かった。各職種別の研修会について参加者の感想はおおむね好評であるが、職種によっては参加がない県もあった。これは交通の便が悪い、患者を実際に診療する機会がないのでニーズがない、などの事情もあると思われるが、独自に行ったアンケート調査では、本研究自体の意義を理解していない拠点病院も少なからずあることが分かった。今後は本研究の意義を拠点病院に改めて周知すると共に、募集方法や内容改変などで対応していきたい。

A. 研究目的

本研究の目的は中国・四国地方のHIV感染症の医療体制の整備のために、ブロック内のHIV感染者/エイズ患者の動向を調査すると共に、診療や教育支援に役立つために、研修会の開催や教育資料の開発を行うことにある。またそれらを通じて、ケア提供者の資質の向上を図ることである。

B. 研究方法

臨床疫学的データについては、厚生労働省エイズ動向委員会による「エイズ発生動向」（<http://api-net.jfap.or.jp/index.html>）を参考に解析した。また研修会の内容や参加については、過去3年間の参加者名簿や配付資料を集積・解析を行った。

さらに、平成24年度には薬害地域原告の要望である“ブロック内の患者の現状把握”と“エイズ対策研究事業や提供資料の認知度”を見る目的で、ブロック内の中核及び拠点病院の全施設に対してアンケート調査を実施した。

個人情報と思われる項目（氏名、市町村レベルでの住所、生年月日等）を除き、解析した。これをもって倫理面の配慮とした。

C. 研究結果

〔1〕中国四国の患者動向

中国四国地方の2012年9月末時点におけるHIV/AIDS累積報告数の推移を【図1】に示した。2012年9月末時点のブロック内のHIV/AIDS累積報告数は750人であり、日本全体の3.6%を占める。全体に占める割合も微増している（2011年は3.3%）。また人口10万人対で見た過去3年間のHIV/AIDS累積比率の変化を【図2】に示す。広島、島根、山口以外の県は、報告数の中で比較的AIDSの比率が多い。

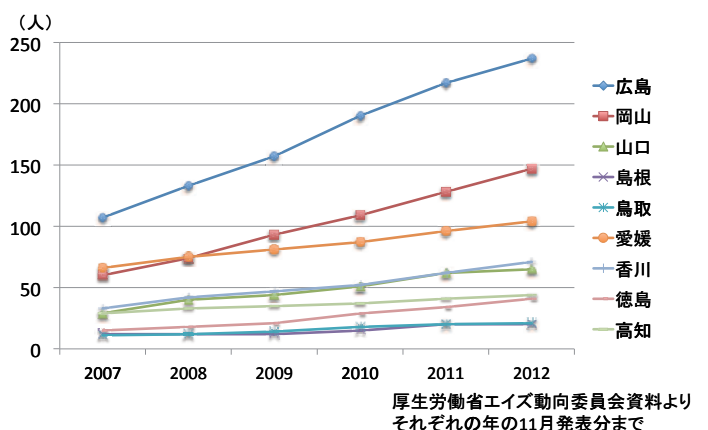


図1 中国四国地方のHIV/AIDS患者累計数の推移

[2]研修会・会議の参加について

過去3年間における医師向け研修会の参加施設と参加人数を【表1】に示す。医師向け研修会は、卒業10年以内の比較的若手の医師を対象としている。しかしその世代は、各勤務先病院にとって働き盛りの人材であり、数日間病院を離れることは困難なことが多い。その事情を踏まえ、例年3連休の中日の1日で濃密な内容を行うこととしている。そのため、必然と少人数となる。募集はブロック内の拠点病院に対して行っているが、山口大学、鳥取大学、香川大学、高知大学と言った、地域の中核拠点病院であり、かつ卒業研修なども充実している大学病院

からの参加が0である。一方、岡山からは参加が多く広島に参加人数を上回っている。

過去3年間における看護師向け研修会の参加施設と参加人数を【表2】に示す。アドバンストコース参加者は、初心者コースを受講した者が前提であるため、この度は集計から除外した。医師と違い、愛媛県以外では表中赤字のとおり中核拠点病院からあまねく参加が得られていた。また医師向け研修会の参加のない鳥取、高知からの参加も多かった。

【表3】には、過去3年間における心理職、福祉職の研修会・会議の所属と参加人数を示した。心理職の研修会は、別に薬剤師向け研修会と同時開催し

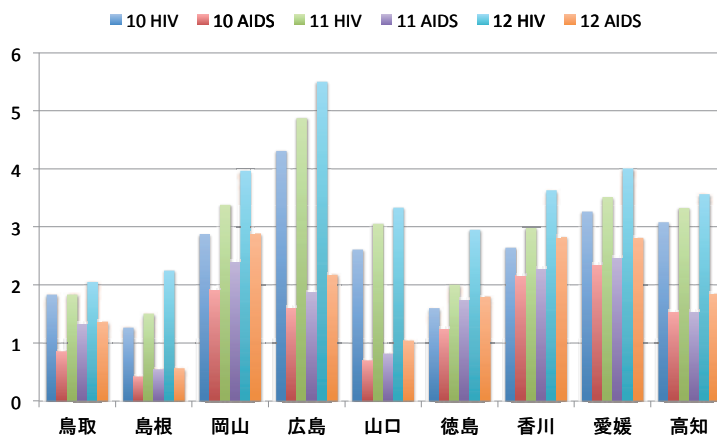


図2 人口10万人対で見た過去3年間のHIV/AIDS累積比率の変化

表1 3年間における医師向け研修会の参加施設と人数

県	所属施設	人数(合計)	診療科
鳥取	—	0	—
島根	松江赤十字病院, 島根大学病院	2	血液内科, 呼吸器内科
岡山	川崎医科大学病院, 津山中央病院, 岡山赤十字病院, 岡山医療センター, 倉敷中央病院,	14	血液内科, 呼吸器内科, 産婦人科, 救急科, 消化器内科,
広島	県立広島病院, 広島大学病院, 広島市民病院, 福山医療センター, 呉医療センター	9	血液内科, 総合診療科, 救急科, 皮膚科
山口	県立総合医療センター, 山口宇部医療センター	2	血液内科, 呼吸器内科
徳島	徳島大学病院	1	血液内科
香川	—	0	—
愛媛	愛媛大学病院, 松山赤十字病院	4	血液内科, 膠原病科, 歯科
高知	—	0	—

表2 3年間における看護師向け研修会（初級者コース）の参加施設と人数

県	所属施設	人数(合計)
鳥取	米子医療センター, 鳥取大学	6
島根	松江赤十字, 島根大学	5
岡山	倉敷中央, 済生会岡山, 岡山医療センター, 川崎医科, 川崎医科附属川崎, 岡山労災	12
広島	県立広島, 呉医療センター, 広島大学, 広島市民, 西条中央, 福山医療センター	21
山口	関門医療センター, 山口大学, 県立医療センター	4
徳島	徳島大学	1
香川	香川大学, 三豊総合	4
愛媛	松山記念, 松山赤十字	4
高知	高知大学, 県立安芸, 高知医療センター	7

* 赤字は中核拠点病院

表3 3年間における心理職・福祉職向け研修・会議の所属と人数

心理職(初心者対象)(H23~24年度)			福祉職(MSW向け)(H22~24年度)		
県	所属	人数	県	所属	人数
鳥取	鳥取大学	1	鳥取	—	0
島根	県立中央	1	島根	島根大学, 松江赤十字	4
岡山	倉敷市施設, 川崎医大, 川崎医大附属川崎, 岡山済生会, 岡山赤十字	7	岡山	川崎医科, 岡山済生会, 岡山赤十字, 岡山大学, 津山中央, 南岡山医療センター	11
広島	福山医療センター, 広島大学, 開業(県派遣), 廿日市記念, 県立広島	7	広島	県立広島, 広島市民, 呉医療センター, 福山医療センター, 三原土肥, 三原医師会, 本取, みつぎ, 中電, 老健	15
山口	関門医療センター, 開業, 県派遣, 泉原	5	山口	山口大学, 宇部医療センター,	4
徳島	県施設, 徳島大学, 公立中学校	5	徳島	徳島大学,	3
香川	香川小児, 香川大学	5	香川	香川大学, 国立善通寺, 高松赤十字, 香川県中,	7
愛媛	市立宇和島, 愛媛大学	2	愛媛	愛媛大学, 市立宇和島, 市立大洲, 愛媛県中,	7
高知	高知大学, 高知心理療法研究所	3	高知	高知医療センター,	1

ているが、それは主催が広島県臨床心理士会であるため、集計から除外した。ここに示すものは、平成23年度より立ち上げた“(HIV心理ケアに関して)初級者向け研修会”の参加者である。表中の“開業”とは、私立のカウンセリングルーム所属を示す。2年間であるが、病院所属のみならず“開業”あるいはスクールカウンセラーの参加もある。また福祉職(MSW)向け研修会であるが、例年1日目が会議、2日目が研修という2部構成で行っている。しかし平成24年度は、1日目の会議をさらに短縮し、研修会を前面に出したプログラムにした。さらに1日目の研修会は、拠点病院所属のMSWだけでなく、地域の一般病院や介護施設にも参加を呼びかけた。そのため集計すると圧倒的に広島の参加者が多くなっている。また広島までの交通の便が悪い鳥

取、高知からの参加者は非常に少ない。

[3] アンケート調査結果について

ブロック内の中核・エイズ拠点病院は59医療機関である(本院は除く)。解答は29機関から得られ、回答率は49.2%であった。

まず医療体制についての設問に対する結果を【図3】にまとめた。医師、看護師、薬剤師については“担当として関わる人数”を、心理職、福祉職についてはその職種の所属・立場を問うた。図内の薬剤師数グラフ凡例の*は、“特にHIV患者担当を決めていない”を含めたことを示す。また心理職、福祉職のグラフ凡例“その他”は、複数人で担当しているため複数回答となっているか無回答のものを含めた。医師は少なくとも1人以上担当が決まっている

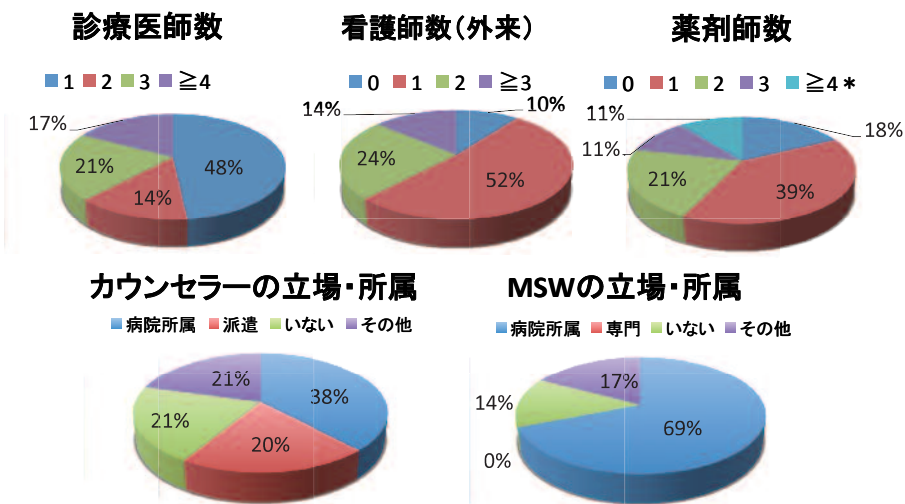
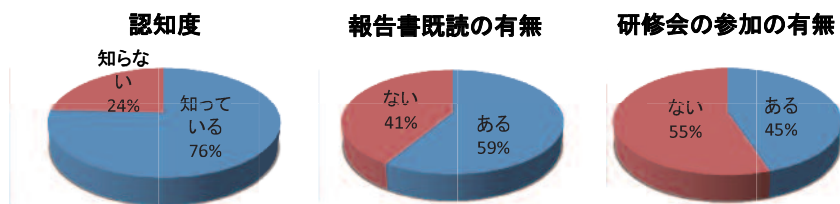


図3 アンケート結果；エイズ診療体制



職種別研修会参加の有無(参加あり;13施設より)

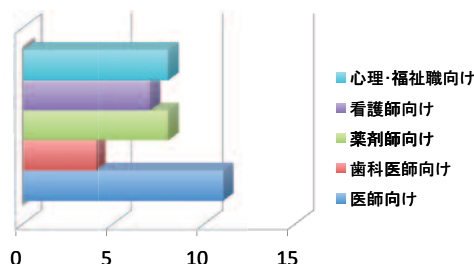


図4 本研究班の認知度及び研修参加の有無

が、看護師は担当が決まっていないのが回答施設の10%を占めた。カウンセラーは“いない”と答えた施設が21%あった。またMSWは“HIV専門”と答えた施設はなく、ほとんどが病院所属のワーカーがHIV/AIDS患者の担当をしていた。

【図4】に本研究班の認知や主催する研修会の参加の有無を示す。本研究班の存在を知らない施設が回答中24%もあった。研修会の参加についても半数に満たない。しかし、「研修会に参加したことがある」と答えた施設では「医師向け」が最も多かった。

過去3年間に本研究として本院が発行した小冊子についての認知度・活用度を【図5】に示す。中でも「HIV検査について」「初めてでもできるHIV検査の勧め方・告知の仕方」の認知度・活用度が共に60%以上と他と比較して高かった。

D. 考察

HIV/AIDSの新規報告例は年々増加しており、人口10万人対における比率は累積のみならず新規でも増加している。また近年の傾向として、エイズ発病で報告されるケースが目立っており、早期発見に向けた一層の努力が必要である。その取り組みの一環として各職種別研修会がある。しかし、医師向け研修会では鳥取、香川、高知の3県からの、福祉職

向け研修会では鳥取からの参加が3年間0であった。これらの県は患者報告数も少ないが、“いきなりエイズ”のケースが比較的多い地域である。これらの県の中核・拠点病院へいかに働きかけをしていくかは大きな課題である。中核拠点病院は、複数存在する山口、広島以外の県では全て大学病院であり、比較的医師の研修プログラムも充実している。そのため、本院主催の研修は不要と考えているのか、それとも各中核拠点病院自体の研修プログラムにHIV/AIDSに関する研修が入っているのか、医師向け研修会の参加は少ない。逆に看護師向け研修会の参加は各県の中核拠点病院からの参加が多い。この医師、看護師の研修会の参加の差は、医師の過重労働のために働き盛りの医師を1日でも院外で研修させることができない、現実を垣間見ることができる。一方、日本エイズ学会が本年度より“専門医師”“専門看護師”制度を発足させた。今後は研修会の内容をより魅力あるものにブラッシュアップすると共に、研修を受けることで“専門医”“専門看護師”の取得ができることをアピールしていく必要がある。

本研究の総括として、ブロック内の拠点病院に対してアンケート調査を行った。その回答の中で、中核拠点病院・拠点病院であっても、外来の担当看護師がいない、カウンセラーがいない、など人的整備が遅れていることが分かった。また、血友病合併例

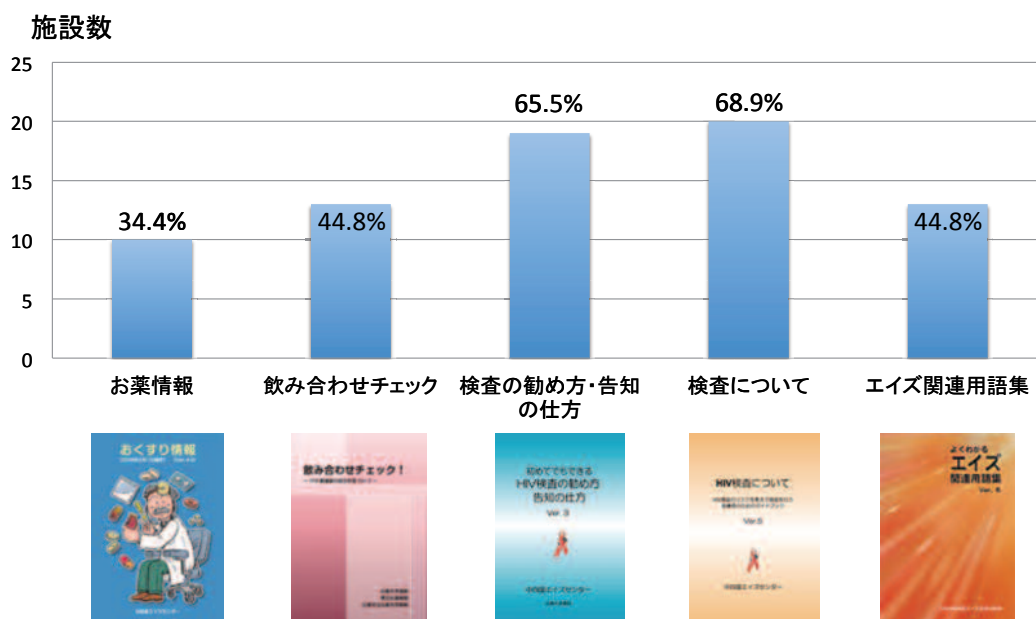


図5 発行小冊子の認知・活用

は、担当診療科が“血液内科”である病院が診療していた。「治療困難例」についても問うたが、予想に反して血友病合併例は挙がっておらず、むしろ性感染例の精神・神経合併症によって治療やケアに難渋している例が挙がっていた。このことより、このブロック内のHIV感染症の合併症の問題は、肝・腎よりも精神・神経の比重が高いことが伺える。

発行冊子の認知度・活用度であるが、日本エイズ学会学会学術集会などで人気の「エイズ関連用語集」は意外に低い結果となった。逆に「HIV検査」関連の小冊子の認知・活用が高かった。これよりまだこのブロックでは、「HIVを疑ったらどんな検査をするか?」「HIV検査をどう勧めればよいか?」と言ったことに関心が強く、治療を含めたその後のことまでには、関心が低いことが予想される。この現状は決して好ましい状況ではなく、「HIV医療の均てん化」を掲げる本研究の主旨に沿うものではない。一方で、患者数に比して拠点病院数が多く、名実共に拠点・専門施設となるには症例経験が絶対的に足りないという事情もある。拠点病院から中核あるいはブロック拠点病院へ患者を紹介するという流れが現実であるが、今後は地域の拠点病院へ逆紹介、日常の問題や合併症についてはその病院で診療するシステムを構築していく必要がある。またそれは、拠点病院の枠に留まらず今後高齢化する患者のケアのために、非拠点病院やクリニック、在宅ケア、介護にまで拡げて行かなければならない。

アンケートによると本研究自体を認知していない施設があったことは驚きである。薬害原告団が訴えるように、この医療体制がどのようにしてできたものか周知徹底し、薬害エイズを風化させない努力も一方では必要なのかも知れない。

E. 健康危険情報

特になし

F. 研究発表

1. 発表論文

- 1) 藤井輝久 感染症 ウイルス性肝炎—HIV感染症に伴う肝胆道系合併症 日本臨床別冊肝・胆道系症候群I 64-69, 2010.
- 2) 藤井輝久 エイズ検査の勧め方 広島市医師会だより 531:4-6, 2010.

- 3) 藤井輝久 エイズ/HIV感染症の概略と検査の勧め方 広島市医師会だより 543:11-13, 2011.
- 4) 齋藤誠司、鍵浦文子、喜花伸子、船附祥子、藤田啓子、畝井浩子、藤井輝久、高田昇、木村昭郎 HIV/HBV重複感染症例におけるHBVに対する治療経験とその考察 日本エイズ学会雑誌 14(2):111-117, 2012.
- 5) 藤井輝久 中国四国地方におけるHIV感染症の動向と現状 医学の門 53(4):262-267, 2012.
- 6) 藤井輝久 エイズ/HIV感染症の概略と検査の勧め方—実習を通じて— 広島市医師会だより 554(6):7-9, 2012.

2. 学会発表

- 1) 太刀掛咲子、畝井浩子、関野由希、藤田啓子、齋藤誠司、藤井輝久、高田昇、木村昭郎、木平健治 広島大学病院におけるラルテグラビルの使用状況と精神症状の副作用調査 第24回日本エイズ学会学術集会（平成22年11月24日～26日 東京）
- 2) 関野由希、藤田啓子、太刀掛咲子、畝井浩子、藤井輝久、齋藤誠司、木村昭郎、高田昇、木平健治 院外処方せん応需薬局における抗HIV薬処方に対する意識調査について 第24回日本エイズ学会学術集会（平成22年11月24日～26日 東京）
- 3) 喜花伸子、品川由佳、内野悌司、兒玉憲一、濱本京子、船附祥子、鍵浦文子、藤井輝久、木村昭郎 広島県内の新規派遣カウンセラー養成の取り組み—HIV告知直後カウンセリングに携わる不安軽減を目指して— 第24回日本エイズ学会学術集会（平成22年11月24日～26日 東京）
- 4) 齋藤誠司、鍵浦文子、小川良子、藤井輝久、高田昇、木村昭郎 ART施行例における脂質異常症合併例の考察 第24回日本エイズ学会学術集会（平成22年11月24日～26日 東京）
- 5) 藤田啓子、関野由希、太刀掛咲子、畝井浩子、村上信行、豊見雅文、藤井輝久、齋藤誠司、木村昭郎、高田昇、木平健治 HIV感染症及び抗HIV薬処方せんに対する薬局薬剤師に対する意識について 第20回日本医療薬学会（平成22年11月13～14日 千葉）
- 6) 服部純子、椎野禎一郎、湯永博之、林田庸総、吉田繁、千葉仁志、小池隆夫、佐々木悟、伊藤俊広、内田和江、原孝、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、近藤真規子、今井光信、長島真美、貞升健志、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、加藤真吾、藤井毅、岩本愛吉、西澤雅子、仲宗根正、岡慎一、伊部史朗、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡邊大、白阪琢磨、小島洋子、森治代、

- 中桐逸博、藤井輝久、高田昇、木村昭郎、南留美、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦 互 新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性頻度の動向、第25回日本エイズ学会学術集会（平成23年11月30日～12月2日 東京）
- 7) 齋藤誠司、鍵浦文子、藤井輝久、高田昇、木村昭郎 HIV感染症に関連した甲状腺機能異常症8例の考察 第25回日本エイズ学会学術集会（平成23年12月30日～12月2日 東京）
- 8) 藤井輝久、齋藤誠司、鍵浦文子、高田昇、本院のエイズ患者における免疫再構築症候群の現状と考察 第86回日本感染症学会学術集会（平成24年4月25日～4月26日 長崎）
- 9) 鍵浦文子、藤井輝久、齋藤誠司、高田昇、広島大学病院HIV/AIDS患者の初診時における梅毒罹患の状況 第86回日本感染症学会学術集会（平成24年4月25日～4月26日 長崎）
- 10) 藤田啓子、藤井健司、畝井浩子、鍵浦文子、藤井輝久、齋藤誠司、高田昇、木平健治 当院におけるHIV感染者に対するB型肝炎ワクチン接種の効果について 第86回日本感染症学会学術集会（平成24年4月25日～4月26日 長崎）
- 11) 高田昇、齋藤誠司、藤井輝久、藤田啓子、藤井健司、畝井浩子、木平健治 広島大学病院の抗HIV療法の変遷 第82回日本感染症学会西日本地方学術集会（平成24年11月5日～11月7日 福岡）
- 12) 西島 健、高野 操、石坂美千代、湯永博之、菊池嘉、遠藤知之、堀場昌英、金田 暁、鯉淵智彦、内藤俊夫、吉田正樹、立川夏夫、横幕能行、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、健山正男、田邊嘉也、満屋裕明、岡 慎一 初回治療でアタザナビル／リトナビルを固定しエブジコムとツルバダを無作為割付するオープンラベル多施設臨床試験：ETstudy 96週結果 第26回日本エイズ学会学術集会（平成24年11月24日～11月26日 横浜）
- 13) 福武勝幸、篠澤圭子、味澤 篤、岩本愛吉、菊池嘉、白阪琢磨、藤井輝久、花房秀次、三間屋純一、関根祐介、山元泰之 エイズ治療薬研究班の活動（1996年から2011年） 第26回日本エイズ学会学術集会（平成24年11月24日～11月26日 横浜）
- 14) 四本美保子、篠澤圭子、山元泰之、青木 眞、関根祐介、味澤 篤、岩本愛吉、菊池 嘉、白阪琢磨、藤井輝久、花房秀次、福武勝幸 本邦におけるHIV感染症患者のアトバコン使用状況と副作用、第26回日本エイズ学会学術集会（平成24年11月24日～11月26日 横浜）
- 15) 高田昇、齋藤誠司、木下一枝、西坂理絵、鍵浦文子、杉原清香、藤井輝久 広島大学病院のHIV感染症の疾病統計、第26回日本エイズ学会学術集会（平成24年11月24日～11月26日 横浜）
- 16) 服部純子、湯永博之、渡邊 大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南留美、吉田 繁、森 治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、千葉仁志、佐藤典宏、伊藤俊広、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、岩本愛吉、西澤雅子、岡 慎一、伊部史朗、松田昌和、林田庸総、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、白阪琢磨、小島洋子、藤井輝久、高田昇、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦 互 新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIVの動向 第26回日本エイズ学会学術集会（平成24年11月24日～11月26日 横浜）
- 17) 齋藤誠司、鍵浦文子、木下一枝、西坂理絵、喜花伸子、石原麻彩、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、中村 毅、藤井輝久、高田昇 ART施行例の動脈硬化症評価におけるPWV/ABIの有用性について 第26回日本エイズ学会学術集会（平成24年11月24日～11月26日 横浜）
- 18) 松井加奈子、柴 秀樹、鍵浦文子、木下一枝、西坂理絵、岩田倫幸、高田昇、齋藤誠司、藤井輝久 広島大学病院におけるHIV陽性者の歯科医療への取り組み 第26回日本エイズ学会学術集会（平成24年11月24日～11月26日 横浜）
- 19) 藤井輝久、杉原清香、齋藤誠司、鍵浦文子、木下一枝、高田昇 CD4数増加しない症例においてCD4/CD8比率のモニタリングは有用である 第26回日本エイズ学会学術集会（平成24年11月24日～11月26日 横浜）

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

この度は、アンケート調査にご協力頂きありがとうございます。

- このアンケート調査の目的は以下のとおりです。
 - ▶ 中国四国ブロック内のエイズ拠点病院（中核拠点病院を含む）における HIV 診療体制と患者の動態を把握すること
 - ▶ 中国四国ブロック内のエイズ拠点病院（中核拠点病院を含む）の医師または医療スタッフが、HIV・エイズの診療・治療に関する厚生労働省科学研究費事業の認知度とその利用の有無を明らかにすること
 - ▶ 上記を把握した上で、今後ブロック内の HIV 診療の均てん化のために、コンサルテーション業務の充実化や、研修内容の見直し、提供する資料の参考とする
- 患者の個人情報の保護について
 - ▶ 質問には、医療機関名、記入者名は記入していただきますが、患者個人を特定できる氏名、住所、生年月日などをお答えするものではありません。
 - ▶ 回答結果は集計の上、ブロック拠点病院連絡協議会や下記研究班の報告書にてご報告いたしますが、その過程で患者個人が特定されることはありません。また他の目的で使用することはありません。
- アンケート記入に際して
 - ▶ 記入後のアンケート用紙は返信用封筒に入れて封をして平成24年11月末日までに投函して下さい。
 - ▶ アンケートをご返送いただいた方には、QUOカード1000円分送付させていただきます。その場合ご面倒ですが、受領証にサインの上、再返送を御願いたします。
- このアンケート調査についてご不明の点は、下記までお問い合わせ下さい。

広島県広島市南区霞1丁目2番3号 広島大学病院輸血部・エイズ医療対策室
HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究：山本班
 分担研究者 藤井輝久
 電話 082-257-5581 または 082-257-5351 e-mail: teruchan@hiroshima-u.ac.jp

2


- 以下の質問についてご記入下さい。はい、いいえ、あるいは番号の場合にはそれぞれ〇で囲んでください。

- 1 貴院の HIV 診療体制についてお答えください。
- 1) 外来診療に従事する医師は何名ですか？ () 名
 →診療科は ()
- 2) 外来診療に従事する薬剤師は何名ですか？ () 名
- 3) 外来診療に従事する看護師は何名ですか？ () 名
- 4) どのような立場の心理士が関わっていますか？
- ① 病院所属のカウンセラー
 - ② 中核拠点病院相談制度の派遣カウンセラー
 - ③ 県の派遣カウンセラー
 - ④ 心理士はいない（関わらない）ので、他の職種の者がカウンセリングしている
 - ⑤ その他 ()
- 5) どのような立場のワーカーが関わっていますか？
- ① 病院所属のワーカー（他疾患も関わる）
 - ② HIV 診療の専任のワーカー
 - ③ ワーカーはいない（関わらない）ので、他の職種の者が代行している
 - ④ その他 ()
- 6) その他、他の職種で HIV 診療に携わっている人はいますか？ 職種と人数をお書きください。
 ()
- 7) 定期的なカンファレンスは行っていますか？ はい いいえ
 →はい、とお答えになった方に伺います。その開催頻度は？ (回/)
- 8) 平成23年度(23.4.1～24.3.31)までに1回以上外来受診又は入院した患者の実人数は何名ですか？ 約 () 名
 そのうち血友病合併例は何名ですか？ () 名
- 9) 問題となっている症例があれば、お書きください。

3

- 2 HIV・エイズに関する厚生労働省科学研究費事業について伺います。
- 1) HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究（山本班）について
- 1)-1. 知っていますか？ はい いいえ
- 1)-2. 報告書を読んだことはありますか？ はい いいえ
- 1)-3. 貴院の診療スタッフは、本院主催の研修または研究会に参加したことがありますか？ はい いいえ
- はい、とお答えになった方に伺います。ご存じの範囲で構いませんので、どの職種向けの研修会か、下記の中からお答えください。（複数回答可）
- ・ 医師向け研修会
 - ・ 歯科医師向け研究会議
 - ・ 看護師向け研修会（初級者コース）
 - ・ 看護師向け研修会（アドバンスコース）
 - ・ 薬剤師向け研修会
 - ・ カウンセラー向け研修会（初心者向け）
 - ・ 福祉職（ワーカー）向け研究会議
 - ・ その他 ()
- いいえ、とお答えになった方に伺います。理由を教えてください。（複数回答可）
- ① 研修会・会議自体あることを知らない
 - ② 日程の都合がつかない
 - ③ 研修費・交通費等が工面できない
 - ④ 上司の許可が出ない
 - ⑤ 魅力的な内容ではない
 - ⑥ 他のブロック拠点病院・中核拠点病院の研修会で十分
 - ⑦ 希望者がいない
 - ⑧ その他 ()
- 1)-4. 本院主催の研修会や研究会について感想やご意見がありましたらお書き下さい。
- ()
- 1)-5. 中四国エイズセンターHP (<http://www.aids-chushi.or.jp>) にアクセスしたことがありますか？ はい いいえ
- はい、とお答えになった方に伺います。内容について何かご感想、ご意見がありましたら書きください。
- ()

4

- 1)-6. 分担研究の成果として以下のような冊子があります。読んだことがあるものに〇をつけてください。
- ・ お薬情報
 - ・ 飲み合わせチェック
 - ・ はじめてでもできる HIV 検査の勧め方、告知の仕方
- 
- ・ HIV 検査について
 - 医療者のためのハンドブック
 - ・ よく分かるエイズ関連用語集
- 
- 1)-7. 他のブロック拠点病院や中核拠点病院発行の冊子で、有用と思われたものがあれば、お書きください。
- ()
- 1)-8. 今後あった方がよい、と思われる小冊子・ガイドブックのアイデアがあればお書きください。
- ()


5

2) 国内で流行する HIV 薬剤耐性株の動向把握と治療法の確立に関する研究 (杉浦班) について

2)-1. 知っていますか? はい いいえ

2)-2. 報告書を読んだことはありますか? はい いいえ

2)-3. HP (薬剤耐性インフォメーションセンター: <http://www.hiv-resistance.jp>) を閲覧・アクセスしたことがありますか?
はい いいえ





2)-4. この研究に参加していますか?
はい いいえ

→2)-1. ではい、& 2)-4. でいいえ、の方に伺います。理由を教えてください (複数回答可)

① 該当者 (新規未治療患者) がいない
② 参加する方法がわからない
③ 院内の倫理審査委員会の承認が必要など、手続きが面倒くさい
④ 自施設で行うことが可能
⑤ その他 ()

2)-5. 研究班発行の小冊子を読んだことがありますか?
“HIV 薬剤耐性検査ガイドライン” “きちんと飲むってどんなこと?”

はい いいえ はい いいえ

3) HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究 (白飯班) について



3)-1. 知っていますか? はい いいえ

3)-2. 報告書を読んだことはありますか? はい いいえ

3)-3. 研究班発行の小冊子を読んだことがありますか?

6

“HIV 診療における外来チーム医療マニュアル” “抗 HIV 治療ガイドライン”

はい いいえ はい いいえ

4) 多施設共同研究を通じた新規治療戦略作成に関する研究 (岡班) について

4)-1. 知っていますか? はい いいえ

4)-2. 報告書を読んだことはありますか? はい いいえ


4)-3. この研究班では、さまざまな医師主導型臨床試験をしていますが、貴院の患者はそれらのどれかに参加していますか? はい いいえ

→はい、とお答えになった方に伺います。それはどの臨床試験ですか?

()

5) エイズ治療薬研究班 (福武班) について

5)-1. 知っていますか? はい いいえ



5)-2. HP (<http://labo-med.tokyo-med.ac.jp/aidsdrughw/mokujii.htm>) を閲覧・アクセスしたことがありますか? はい いいえ

5)-3. 研究班に薬剤の依頼をしたことがありますか? はい いいえ

7

→はい、とお答えになった方に伺います。以下のどれを依頼しましたか? (複数回答可。現在の提供薬品のみなので、その他にもご記入ください)

- ・注射用レトロビル
- ・レトロビルシロップ
- ・液状エビビル
- ・液状ザイアジェン
- ・液状ピラミューン
- ・FUZEON (T-20)
- ・ティブラナビル
- ・ST 合剤懸濁液
- ・ピリメサミン
- ・サルファ剤
- ・シドフォビル
- ・バクリタキセル
- ・ドキシール

・その他 ()

→いいえ、とお答えになった方に伺います。理由をおしえてください (複数回答可)

① 該当者がいない (承認済みの治療薬で十分)
② 参加する方法がわからない
③ 院内の倫理審査委員会の承認が必要など、手続きが面倒
④ 日本未承認なので使用するには危険である
⑤ その他 ()

最後に何かご意見がございましたら、お書きください。

()

アンケートは以上です。どうもありがとうございました。

記入者
病院名 _____ 所属 _____ 職種 _____ お名前 _____

QUO カード送付先住所 _____ ・ 病院 _____

連絡先 TEL _____ e-mail _____

8